

Syllabus Id	syl.-132015
Subject Id	sub-132007800
更新履歴	20130326新規
授業科目名	日本事情 Japanese Cultural Affairs
担当教員名	野澤正信 Nozawa Masanobu
対象クラス	4年留学生
単位数	2履修単位
必修／選択	選択
開講時期	H25通年
授業区分	人文・社会科学・語学等
授業形態	講義
実施場所	共通教室4

授業の概要(本教科の工学的、社会的あるいは産業的意味)

この教科の目的は、日本において留学生が円滑な日常生活を送り、卒業後、十分活躍できるように日本の自然と文化に関する基礎的な知識を身につけさせることである。授業では、日本の自然と文化に、できるかぎり直接触れる機会を与え、現に見聞きしていることについて解説することにつとめる。また、学生がそれをめぐって議論する機会を与え、未知の事柄について自ら積極的に学び、発言する姿勢を身につけるようにする。その際、必要に応じて日本語による表現法について解説する。

準備学習(この授業を受講するときに前提となる知識)

日本語

	Weight	目標	説明
学習・教育目標		A	工学倫理の自覚と多面的考察力の養成
		B	社会要請に応えられる工学基礎学力の養成
		C	工学専門知識の創造的活用能力の養成
	○	D	国際的な受信・発信能力の養成
		E	産業現場における実務への対応能力と、自覚的に自己研鑽を継続できる能力の養成

学習・教育目標の達成度検査

1. 該当する学習・教育目標についての達成度検査を目標達成度試験(レポート)をもって行う。
2. プログラム教科目の修得と、目標達成度試験の合格を持って当該する学習・教育目標の達成とする。
3. 目標達成度試験の実施要領は別に定める。

授業目標

日本の自然と文化について基本的なことがらが理解できる
他の学生の意見を聞いて理解し議論することができる
与えられたテーマについて日本語の作文ができる

授業計画(プログラム授業は原則としてプログラム教員が自由に参観できますが、参観欄に×印がある回は参観できません。)

回	メインテーマ	サブテーマ	参観
第1回	前期オリエンテーション	前期授業で扱うテーマの紹介と解説	
第2回	1 日本の自然	光長寺の樹木	
第3回		黄瀬川と門池の自然	
第4回		岡宮の巨木	
第5回		源兵衛川の自然	
第6回		温水池の自然	
第7回		柿田川上流の自然	
第8回		柿田川下流の自然	
第9回		狩野川下流域の自然	
第10回		香貫山の自然	
第11回		千本浜の自然	
第12回		本城山の自然	
第13回		龍沢寺の樹木の自然	
第14回		伊豆長岡の自然と史跡 1	
第15回		伊豆長岡の自然と史跡 2	
第16回	後期オリエンテーション	後期授業で扱うテーマの紹介と解説	
第17回	2 日本の文化と遊	日本の歌・童謡	

第18回		日本の子供の対面遊び	
第19回		折り紙	
第20回		紐遊び	
第21回		将棋	
第22回		将棋の駒を使う遊び	
第23回		切り絵・からくり手帳	
第24回		すごろく	
第25回		日本の正月	
第26回		コマ回し	
第27回		花札	
第28回		知恵の輪	
第29回		ことば遊び	
第30回		1年間のまとめ	

課題

サブテーマの1/3ほどのテーマについて800字の作文の課題を課す。また、授業内で小テストを数回行う。

評価方法と基準

評価方法:

授業内での小テスト、及び800字の課題作文による評価。

評価基準:

100点満点で、小テストの評価が50%、作文の内容と日本語表現力の評価が50% 60点以上を合格とする。

教科書等

教科書は使用しない。必要に応じてプリントを配布する。

先修科目

関連サイトのURL

<http://moodle.numazu-ct.ac.jp/moodle/>
<http://user.numazu-ct.ac.jp/~nozawa/nozawahp.htm>

授業アンケートへの対応

良好な評価で、特に指摘されている点はない。
 日本のさまざまな事柄について楽しく学べるよう努める。

備考

1.試験や課題レポート等は、JABEE、大学評価・学位授与機構、文部科学省の教育実施検査に使用することがあります。
 2.授業参観されるプログラム教員は当該授業が行われる少なくとも1週間前に教科目担当教員へ連絡してください。